

日米はじめアジア、アフリカ、欧州…

秋田魁新報

# 教員公募に 延べ567人

県が来年四月開学を目指している国際教養大学の教員募集で、公募枠十五人に対し三七・八倍の延べ五百六十七人から応募があったことが二十日分かった。応募者の国籍は日本、アメリカのほかアジア、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニアなど四十四カ国・地域に及んだ。中にはイラク、イスラエル、ウガンダ、アルゼンチンからも応募があった。

教員の公募は昨年十一月下旬から今年十月日まで英語、人文・社会科学、ビジネス、北米研究、東アジア研究、日本語の計六分野について行った。インターネットなどを通じてPRした。複数分野に応募した例もあり、実数は四百四十六人だった。

## 37.8倍の狭き門に

分野別に応募者数(延べ人数)を見ると、ビジネスは公募枠四人に対し百六十八人で四十二倍、英語は四人の枠に百人で四二・五倍など高倍率となった。

同大の教員数は三十九人の予定。全員英語で授業ができることが条件で、教員の半数以上を外国人とすることを目指している。大学創設準備委員などの紹介による選考採用の作業も進んでおり、現在のところ選考採用予定者は二十四人。今後の作業の進展によっては、公募枠は若干変動する可能性もある。来月半ばまでに採用者を内定する。

大 国際教養大学の

## 大 国際教養大学 教員公募

### 定員15人に応募567人

来年四月開学予定の国際教養大学の教員公募で、定員十五人に対し、延べ五百六十七人の応募があったことが二十日、わかった。単年度の平均で三七・八倍になるが、昨年度は三十九人を選考採用する二十四人を除き、今年十月まで公募している。募集は英語、ビジネス、

社会科学系など八分野で、日本人百八十七人を含む世界四十四カ国・地域から四百四十六人(延べ五百六十七人)の応募があった。最も倍率が高いのは自然科学系で、募集一人に対し五十三人が集まった。準備室では書類選考や面接をした上で、選考採用者も含めて、来月中旬までに教員を内定したい考え。

教員は原則三年の任期制で、更新もできる。同大は、独立行政法人化を目指しており、法人化された時点で改めて雇用契約を結ぶ。

最高倍率 自然科学系53倍